



Vol. 7

発行日 2010年 5月24日

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター ニュースレター

1. I-Chat Loungeを紹介します！

2010年4月、国際センターとI-Chat Loungeが一つになりました。今後も引き続きスタッフ全員が協力し、OGU学生と海外からの留学生をサポートしていきます。今号では、新しくなったI-Chat Loungeを紹介します。

OGUキャンパス13号館1階の広々とした部屋で、学生たちが小グループに分かれてテーブルを囲み、スタッフが彼らと膝を交えながら英語で話したり、新しい単語を教えたりしている。あちらではソファに座った学生たちがテレビの前で、「ラリーキングショー」に見入っている。また別の場所では、一人の学生がジャパントイムの最新版に夢中になっていて、その隣では彼の友達がYouTubeのビデオクリップを楽しんでいる。

OGUのI-Chat Lounge (International Chat Lounge)では、毎日このような光景を見ることができます。

8年前にOGUキャンパスに登場したI-Chat Loungeは、学生が新しい言語や異文化を学ぶ場所としての役割を担ってきました。学生は語学修得や異文化の理解についてサポートやアドバイスを受けることができ、また国際的な雰囲気の中で言語を練習し、語学力を磨くチャンスを得ることができます。海外からの訪問者も頻繁にこのI-Chat Loungeを訪れることから、学生たちには大学から一歩も出ることなく、外国人とコミュニケーションを取る機会がたくさんあります。

月曜日から金曜日の午前10時から午後5時まで、I-Chat Loungeには毎日100人近い

学生がやってきて、施設を利用し、スタッフや他の学生との時間を楽しんでいます。本、新聞、DVDなど用意されているすべての資料は英語です。またテレビからは四六時中CNNが流れています。

I-Chat Loungeでは、学生たちは出来る限り英語で話すように指導されているため、それぞれのコミュニケーションは主に英語で行われます。時には、韓国語、スペイン語、ドイツ語など他の言語でイベントやアクティビティが行われることもあります。また興味のある学生に向けて、国際センターの留学生たちが彼らに母国語を教えることもあります。

スタッフとアクティビティ

I-Chatスタッフは、現在計5名で、日本人スタッフ1名と4名のネイティブスピーカーがいます。ネイティブスピーカーのうち1名は英語と日本語のバイリンガルスタッフです。この5名のスタッフ体制で、学生の言語習得をサポートし、また英語が練習でき、楽しく面白い方法で様々な文化の伝統、習慣を学べるようなイベントやアクティビティを計画しています。

海外からのゲストスピーカーによるプレゼンテーション、クッキング、テストテーキング、音楽などの特別クラスに加えて、歓迎会や送別会、スポーツイベントなどが開催されます。またクリスマス、ハロウィーン、イースターには毎年I-Chat Loungeでイベントがあり、様々な伝統について学んだり、パンプキンを彫ってジャック・オー・ランタンを作ったり、イースターエッグに色を塗ったり、クリスマスツリーのデコレーションをしたりと、それぞれの伝統行事を実際に体験することができます。お花見(桜の花見)や七夕などの日本の季節行事も、海外からの留学生が参加して行われます。

新しい取り組み

今年度からOGU学生のニーズに応じて「はじめてI-Chat (Hajimete I-Chat)」と「ステップアップ・ラーニング・コーナー (STEP-UP Learning Corner)」がスタートしました。「はじめてI-Chat」は、入学したての1年次生と初めてI-Chatにやってきた学生、特に英語



I-Chat Loungeのスタッフ

目次:

I-Chat Loungeを紹介します！	1
国際センターの海外研修	2
2010-2011派遣交換留学	2
“国際開発への道” 長戸 結末	3
ガイダンス・カウンセラー	3
ホストファミリーの心がけ	4
国際センターニュース	4

を学びたい気持ちはあるけれど、自分の英語力に自信のない学生を対象にしています。I-Chat Loungeのルールや機能、I-Chatでの時間をいかに有効に使うかなどを学び、また言語の面でも学生のニーズに合わせたサポートが提供されます。

次に「ステップアップ・ラーニング・コーナー」は、英語レベルを向上させたいと考えている英語上級者を対象としています。授業や日常で使える実質的なスキルや技術を紹介し、学生がさらに語学力を向上させることができるような内容になっています。スタッフが先生としての役割を担うだけでなく、学生が学習目標を達成できるように、また自分で勉強できるように導く“仲介役”あるいは“サポーター”としての役割も担っています。

国際センターの新しいメンバーとして、I-Chat Loungeは学生が海外の人々、語学、文化を楽しく学べる場所としての役割を継続していきます。今後も、国際センターと協力してアクティビティを実施し、学生に言語や異文化を学ぶチャンスを与え、また学生が海外へ飛び出していく準備をしていけるようにサポートしていきます！ (J.D.)



I-Chat Loungeの様子

2. 国際センターの短期海外研修とは？ ～ 海外への第一歩！

国際センターでは、1学期あるいは2学期間の交換留学のみならず、夏期・春期の年2回、短期の海外研修も実施しています。いきなり長期の海外留学は無理だと思っているあなたも2週間、1ヶ月なら行けると思いませんか？それがたとえ短い海外滞在であったとしても、海外で

語学を勉強したり、ボランティア活動に参加したりすることは、個人で行く海外旅行とは違います。現地の大学に通う、その国の人々とコミュニケーションを取る、一緒に暮らす。単なる旅行では経験できません。短い期間だったとしてもあまり意味がないと思っているあなた、その限られた時間をどう過ご

すかはあなた次第です。1週間の海外滞在中で、随分と成長して戻ってきた学生もいましたし、その後長期の交換留学に行った学生もいます。短い4年間の大学生活を充実したものにするためにも、一歩踏み出す勇気を持ってください。海外へ飛び出して、今まで見たことのなかった世界に出会いましょう！

3. 2010-2011派遣交換留学決定！ ～ 28名が海外提携大学へ



1月末に出願を締切った2010-2011の派遣交換留学生が決定しました。今年度は過去最高の28名が8月初旬から順次派遣先大学へと旅立っていきます。2009年には初めて南アフリカのネルソンマンデラメトロポリタン大学へ学生を派遣しましたが、今年もアメリカ、カナダの新規提携大

学に加え、リトアニアのピリニウス大学にも初めて学生を1名派遣します。未知の国で学生がどのような留学生活を送ってくるのか今から楽しみです。これから28名と一緒に事前オリエンテーションをしながら、準備を進めていきます。

さて、なぜ国際センターが学生の皆さんに留学を勧めるのでしょうか。まず留学をしてどのようなメリットがあるのでしょうか。留学の一番の目的は語学力の向上でしょう。しかしそれ以上に、留学先で学生たちが得てくる経験は、これからの人生を変えるほどのインパクトがあるものです。守られた日本から飛

び出して、自らの言動に責任を持たなければならない状況、言葉の違う場所で周りの人とコミュニケーションを取らなければならない状況、言葉のみならず文化的背景の違う人々と交わる状況(異文化体験)、日本と言う国を外から見るができる状況。これまでこんな体験を日本でしたことがありますか？1年の交換留学は、全員のOGU学生に平等に与えられるチャンスです。そのチャンスを掴むのはあなた自身です！在学生の皆さんも28名に続いて、交換留学を目指してください！

ここでは交換留学予定者28名を代表して、6名の学生の「留学に向けての抱負」を紹介します。

University of Gävle (Sweden) 国際学部3年次生 榎岡 誉

私は1セメスター、スウェーデンのイエヴレ大学に留学します！イエヴレ大学にはアウトドアコースという特殊なコースがあり、私は留学に行くなら変わったことをやりたいと思って選びました。何年か前にはスウェーデンからの留学生がいたそうですが、今は誰もいないので、留学生からどんな国なのか直接聞くことができません。だからどんな感じなのかと今からワクワクしています。1セメスターという短い期間ですが、出来る限りたくさんのことを吸収して戻って来たいです！

University of St. Thomas (U.S.A.)

国際学部3年次生 加集 裕太郎

僕は8月からアメリカのセント・トーマス大学に留学します。留学は1年次生の頃から希望していましたが、なかなかTOEFLのスコアがクリア出来ずにいました。それでもアメリカへ留学に行きたいと思い、2年次生では英会話の授業を中心に勉強し、電車の中ではCNNニュースを聞くようにしました。また一年間に実施された全てのTOEFLテストを受けて、約1年後には留学に必要なスコアを得られました。2年かかりましたが、今回、機会を得られて本当に良かったと思っています。交換留学の一番大きな魅力は色々な国の人々と接することが出来るということです。どんな人とも良い人間関係が築けるような価値観を養って来たいと思います。

文藻外国学院 (台湾)

外国語学部3年次生 山本真莉子

私は外国語学部ですが、英語以外の言語にも興味があり、第二言語で中国語を履修しています。それもあって台湾への留学を決めました。留学を決めた一番の理由は、実際に現地に行き言葉や文化を学び、語学力を向上したいからです。さらには語学力だけでなく、現地の学生や他国からの留学生とそれぞれの国の習慣、言語、サブカルチャーについての意見交換などもしてみたいです。また日本には分からない日本の良い点、悪い点を理解して、視野を広げ、これからの将来に活かしていきたいと思っています。

スンチョンヒャン

順天郷 大学 (韓国)

外国語学部3年次生 新田 啓介

みんなと違う事がしくて留学を決めたので、どんなことでも積極的に取り組んで、一つ一つの事を悔いの残らないようにしていきたいと思っています。同時に自分とは違う国の人たちの意見やアイデアも取り入れられるような人間になり、将来は自分の好きな国際交流を深めることができる人になりたいです。今しか留学はできないと思うので、120パーセント以上の力を振り絞っていききたいです。留学でしかできないことはたくさんあると思うので、常に挑戦する気持ちを忘れない、そして絶対できるという気持ちを持ってがんばっていききたいです。できるかぎり韓国の文化について勉強していきます！

Medicine Hat College (Canada) 外国語学部3年次生 今村 直人

今回の留学で語学や文化などを学ぶのはもちろんですが、この留学を通してカナダの人はもちろん、世界中の人に日本のことを伝えることが目標です。留学すると世界中の様々な国の人と出会えると思います。そこで出会った人に日本の文化・歴史について、日本人の考え、習慣などを伝え日本について知ってもらいたいです。そのためには異文化を理解できる人間に成長したいです。少しでも日本に興味を持っていたら、将来日本に留学や旅行をしたいと思う人を一人でも増やしたいと思っています。

Universität Trier (Germany) 国際学部2年次生 太田 裕樹

トリア大学では1年という短い期間しかないため、ドイツでは楽しみつつも成果を残せる留学にしたいです。まずはドイツ語のスキルを身につける。帰国後には、独検1級が取れるぐらいの実力を身につけられるよう、できる限り努力します。しかし、語学の勉強をするためだけに留学したいとは思っていません。ドイツやヨーロッパでしか味わえない体験もしたいです。例えばドイツには世界的に有名なサッカーチームがあります。私はサッカーが好きなので、ドイツ人のサポーターと一体になって応援したいです。またEU圏内は移動がしやすいので、イタリアのサッカーの試合も見に行きたいと思っています。楽しみと成果のある留学にしていきたいです。

ゆ み

4. “国際開発への道” 長戸 結末 (2005年国際学部卒・現大学院国際学研究科博士課程)

長戸さんは、本学在学中アメリカのセント・トーマス大学へ交換留学。本学卒業後に再度アメリカに留学し大学院で修士号を取得しました。長戸さんはさらに国際協力に関わるべく青年海外協力隊に参加。帰国後は、外務省に勤務するなど、華々しい経歴を持っていますが、今までの経験を活かし、世界のために役立ちたいと今春から本学大学院国際学研究科の博士課程に進学しました。国際協力に興味のあるOGU学生間では、お手本にしたい卒業生ナンバーワンです！

私 が諸外国の開発援助が実施されている現場を見たり、外務省での実務を経験したりした後、なぜ、改めて学問に専念しようと思ったのかを皆さんにお伝えしたいと思います。

青年海外協力隊として派遣されたジンバブエでは、当時、都市部でも停電・断水が日常茶飯事で、インフレ率1万パーセントともいわれたように経済は破綻状態でした。餓死する子供も現れるなか、国内の政治家はというと高級車を何十台も所有して豪邸に住み、食料・燃料にも困らない生活をしていました。この現実を目の当たりにした私は、日本の政府開発援助や発展途上国の開発に関する仕事に携わりたいとの思いがより強くなり、国際開発の基本的な勉強をしないことにはしたのです。

2007年8月にジンバブエから帰国した後、本学時代のゼミナール担当教員であった小林 泉教授が大学院の国際開発講座を担当されていたことから、この授業への参加を認められました。約1年が経過した頃、日本が3年に一度太平洋の14カ国・2地域を招待して行う「第5回太平洋・島サミット」が2009年5月に開催されることになりました。それに先駆け外務省は、2008年11月に「太平洋・島サミットのための有識者会合」を組織し、太平洋島嶼諸国の開発問題を専門としている小林教授が座長となり、私も教授の推薦で座長アシスタント職として外務省で働くことになりました。

この職は有識者会合の終わる2009年3月に終了しましたが、その間の仕事ぶりが評価され、外務省国際協力局の経済協力専門員に採用されました。この職は2年の任期付きでしたが、正規職員と同様な業務を担当する職種で、その後は正規職への道も開かれていましたので、開発問題を勉強していた私には絶好の機会でした。

しかし外務省勤務を続ける中で、責任重大な実務を任せてもらえるようになればなるほど開発に関する基礎学問の修得の必要性を痛感しました。そこで、きちんとした学問的裏づけをもって開発問題に取り組みたいと思うようになり、本学大学院国際学研究科博士課程への進学を決心しました。実は、私

が外務省を辞めた2010年3月の時点では経済協力専門員としての任期があと1年残っていたので慰留されましたが、勉学への意欲がそれに勝りました。

今後の目標は、博士課程において開発問題の本質を追究し、さらなる国際開発研究やより専門的な現場経験に繋げることにあります。そのためには、表面的に国際開発を知るだけでは不十分で、世界の歴史、宗教、政治、経済などの知識を基盤にして、国際社会の仕組みや動向を理解しなければなりません。また性別や年齢など今後障壁となり得ることもたくさんあると思います。しかし、これまでの経験すべてが博士課程における困難を乗り越えていくための糧となっていくと信じます。これからも周囲の人々への感謝を忘れず、常にその時々状況や自分の立場を的確に見据えて、自分の目指す道を全うしたいと思います。



ジンバブエの子供たちと

5. ガイダンス・カウンセラー：留学生とOGUを結ぶ橋

学 生生活において海外留学は最も楽しく、心躍る体験です。しかしその一方で、それは恐怖、寂しさ、不安を感じる経験でもあります。国際センターの仕事の一つは、日本での学生生活における問題解決、また新しい生活に慣れる時に学生が直面するカルチャーショックや海外生活への移行期をうまく乗り切れるように学生を手助けすることです。5年前、海外からの留学生はわずか11名でした。当時は留学生の数が少なかったため、必要に応じて国際センタースタッフが各学生へのカウンセリングやガイダンスを行っていました。

魅力的な日本語プログラムに重要なのは、個々の学生のニーズを理解することです。留学生の持つ背景、人生経験、派遣元



政子先生とステラ先生(右から二人目と三人目)と学生たち

の大学サポートシステムなどが多様化すればするほど、革新的なサポートプランが必要になってきます。昨年、OGUの受入れ留学生の数は飛躍的に増加し、51名になりました。それを受けて、国際センターは、海外からの留学生をサポートする新たなガイダンスシステムが必要だという結論に至りました。そのため、国際センター所員であった古橋政子先生とステラ・マックスウェル先生が留学生のガイダンス・カウンセラーとして任命されました。昨年の秋学期の始め、各留学生と面談をし、到着直後の体験、新しい生活での難しさ、日本で直面する可能性のある課題などについて学生と話し合いをしました。ステラ先生は英語圏の学生と日本語より英語が堪能な学生を担当し、政子先生は英語が話せない留学生と日本語で面談をしました。ほとんどの学生はこれといった問題もなく、特別なサポートは必要ありませんでした。しかし数名の学生は、カルチャーショックやホームシックを感じている、新しい友達を作るのが難しい、ホストファミリーとのコミュニケーションが難しいなどの問題を抱えており、もっと細かなところでは手紙の書き方、テストへの不安、キャンパスの情報収集の仕方などでサポートが必要な学生もいました。

2人の先生たちは、留学生の話を聞いたり、サポートをしたりと全力を尽くしましたが、先生たちがサポートしきれない問題を抱えている学生については、国際センターのスタッフと協議し、そこからはスタッフがサポートを引き継ぐという形を取りました。もちろんすべての学生情報は極秘に取り扱われ、ガイダンス・カウンセラーと国際センタースタッフ以外には知られることのないように細心の注意をはかっています。学生の要望があれば、学内の心理士とのカウンセリングの機会も提供しました。学生が記入した受入れフォームをファイルすることで、学生が必要としているサポートを整理することができ、国際センターとしても各学生の様々なニーズをより良く理解し、それに合わせてアクティビティを計画することができました。

今秋には、74名の留学生がOGUにやってくる予定になっています。これまで以上に、その学生たちをサポートし、ガイダンスを提供するシステムが必要になってくるでしょう。最後に、秋にやってくる新しい留学生たち全員は一人ももれることなく、生活の移行期には十分にサポートされ、OGUのキャンパスに、そして国際センターの“家族”の一員として暖かく迎え入れられることでしょう！

6. ホストファミリーの心がけ Part 3～寺村優子

紙面の関係でしばらくお休みしていました寺村さんの「ホストファミリーの心がけ」を今号から再開します。なるほどと思われることもあるでしょうし、また違う悩みをお持ちのホストファミリーの方々もいらっしゃると思います。あくまでも一例のご紹介ですが、言語、文化、習慣の違いから起こる行き違い。どこのご家庭でも起こりうることです。日ごろお世話になっているホストファミリーの方々のご参考になればと思います。

ルールは初日に説明する

「3か月もいるのだから、まあ、おいおい説明していこか。」「何となく、見て取ってくれるだろう。」「国際センターのほうで教えてもらっているだろう。」と考えていると、あとで家族が悩むことになります。

ただ微笑みを浮かべるだけで何も説明しない家族。学生にとっては、さぞ不安な事でしょう。説明をしないまま、もしくは「Yes」を言い続けた結果、1ヵ月後に、国際センターに相談し、学生に出て行ってもらう結果になる。これは最悪です。

最初の1ヵ月は、学生が夜遅くに帰宅して

も、朝シャンが長くても、部屋にペットボトルが散乱していても、何も言わなかったのに、突然「困ります」と言う。学生にとっては、「いままで、笑っていたのに、なぜ途中からルールが発生するの?」と理解不能なミステリアスな家族になってしまいます。

大事なルールは紙に書く

もちろん、口でも説明をしますが、大事なルールは紙に書いてファイルにしたり、壁に張っておくと、違反が減ります。「ちゃんと説明しましたよ」という証拠ですから、留学生にとってもホストファミリーにとっても、不安が軽減します。初日の緊張した状態での会話なので、聞き漏らしてしまったことも、理解が不十分であったことも、文章があれば、後で辞書を引いて理解できます。生活の中で覚えた単語は、頭に残るものです。未習語彙習得にも役立って、一石二鳥です。

細かいことまでは説明できていなかったり、言い忘れていたりすることもあるでしょう。例えば、「麦茶は手前のボトルから先に飲んで」とか、そのような、細々した事は、問題が発生してから、「ああ。言い忘れてたわ。これね……。」という感じでいいと思います。ですが、理由の説明を忘れてはいけません。だって、学生は2本あるボトルの何が

違うのかわかっていないと思います。麦茶を飲もうとボトルを手にした途端、ホストマザーが顔色を変えて「○○君ダメ!」と言って取り上げ、何ら変わらないように見える隣のボトルを差し出す。留学生には状況が理解できないでしょうし、このやり方では、間違いが繰り返されてしまいます。「1本が空になってから、新しいほうの麦茶を飲んでほしい。前に作った麦茶は手前(左側)にあるから、それから先に飲んで。」と説明されて初めて、「この家では、手前(左)の麦茶から飲むのが鉄の掟、奥(右)のを先に飲んだら、ホストマザーが困る」と心に刻むのです。ちなみに、ジェスチャー単語を並べるだけで通じます。

ルール違反への対応

最初に違反した時に、はっきりと注意してください。何か叱られていると思えば、益々緊張して、聞き取れなくなることもあります。また留学生の単語力も限られているので、理解できていない部分もあるかもしれません。しかし、ここでも書いて渡せば辞書で調べて理解しようとする。新しい単語にも触れることになりますし、何より自室で落ち着いた状態で反省の時間を持ってもらえるのが利点です。たいていの場合は、その警告文のメモを手元に降ってきて、ちゃんと謝ります。

7. 国際センター News

2011-2012交換留学

来

年のことなので、まだまだ先だと思っているかもしれませんが、準備は今からスタートしてください!

出願受付: 2011年1月11日～24日

語学試験: 2011年1月25日・26日
(フランス語・ドイツ語のみ)

選考面接: 2011年2月1日～10日
(日本語・英語)

合格発表: 2011年3月初旬

交換留学を目指す学生への注意です。それぞれの大学に定められた語学基準を満たすのはもちろんですが、本学での成績も重要です。GPAが2.5以上なければ出願ができません。交換留学生はOGUを代表して、海外へ派遣されます。それを心において、代表となるに相応しい学生を目指してください!



ミシシッピ大学のフットボールフィールド

Medicine Hat College 関係者来校

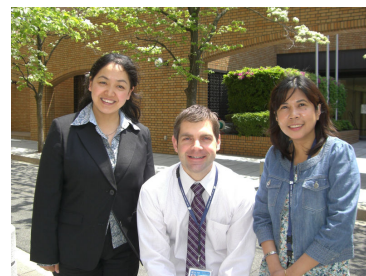


(上)Weeks学長(右から二人目)、Boris氏(左端)、(下)I-Chat Loungeでのイベント

2010年4月26日、カナダ・メディンハット大学のRalph Weeks学長と国際教育担当Russel Boris氏がキャンパスを訪問されました。両校のプログラムに関する情報交換の後、I-Chat Loungeでのイベントに参加されました。今年の夏には、メディンハット大学で3週間の英語研修が実施され、秋には外国語学部3年次生の今村直人君が初めての交換留学生として派遣されます。今後も引き続き活発な学生交換が実施される予定です。

Welcome to KC!

2010年3月31日付けで、国際センタースタッフのTitit Nitiswariさんが退職し、4月1日には国際センターに3名の新しいスタッフを迎えました。まずフィリピン・ケソン市出身のジョイ・デヴェラさん。I-Chat Loungeとの兼任なので、学生の皆さんはあちこちでジョイさんの姿を見かけられると思います。孟 涛(タオ)さんは元々中国・山西省出身ですが、現在の国籍はイギリスです。中国・中国語のことならタオさんに! 最後はニュージーランド・クライストチャーチ出身のダニエル・リリーさん。関西の笑いを理解する外国人です。3人とも日本語、英語はもちろん、さらに多様な言語も駆使するマルチリンガルです! 国際センターは多国籍グループとなり、益々国際色豊かな部署になりました。今後もスタッフ一丸でOGU学生と海外留学生をサポートしていきます!



左からタオ、ダニエル、ジョイ

大阪学院大学・大阪学院短期大学 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

Tel: 06-6381-8434(代) Fax: 06-6381-8499 Email: inoffice@ogu.ac.jp